

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念は地域の中での事を含めてはいない。	○ 地域に密着するための理念かどうか再検討していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしい生き方を一人一人のご利用者様と接してゆく中で見い出そうとスタッフ一人一人が心がけています。しかし、一人一人とじっくり過ごす時間のゆとりはもてません。	○ 一人一人の方とじっくりと過ごし、その人らしい生き方や幸福感や満足感を味わっていただける時間の使い方を追及していくこと。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	今年度より、ホームのパンフレットを作成し、在宅介護支援センター、町の民生委員会に配布し、区域に存在をアピールし、自由に気軽にご利用又は相談をお受けできるようにしました。しかし、区の老人会などの交流はありません。	○ 区域の老人会や他の区民との交流の場を設けていき、行事に参加や当ホームに区域の方をお招きし、自由に出入りしサロンの場所作りをし、区域とも密着した活動を行っていくこと。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々と友好関係を深めるよう積極的に挨拶や会話をするように心がけている。知的障害者や聴覚障害者のボランティアなども受け入れている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年夏には、近隣の人々をご招待し、バーベキュー大会施行、町の芸能祭観賞や保育園の運動会見学、ゴミステーション当番を行った。しかし、老人会や区域の行事参加はしていない。	○ 今年度より、区長に老人会や区の行事への参加、交流の場を設けて頂けるようお願いし、会議にも参加してPRしていきたい。

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者との交流が持っていない。	○	町の協議会や老人会に出席する事で地域の暮らしに役立つことを話し合い取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の自分たちのケアの質や方法を見出し、さらに改善するための具体策を検討した。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	代表者が会議に出席しているだけで、スタッフに伝えていない。	○	毎月の職員会で、報告してゆき、サービス向上に生かしていく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議時以外は、市町村担当者と交流の場はない。	○	地域連携会議や運営推進会議の際に役員会のコミュニケーションをはかり区域の必要に合わせた方法を考え実施していく。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内の研修会や県または、グループホーム会での研修会で学んで、スタッフ間で理解を深めている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修会で学んだ	○	実践を伴う自分たちのケアの見直しをしていきたい。

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	責任者の交代により、こうした機会はまだ与えられていない。	○	契約の中身に精通し、効果的な説明や理解を行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一人一人の利用者様とコミュニケーションをとり、率直に気持ちを表現して頂いており、できるだけ本人のご要求にすぐ答え応じる努力をしている。家人には行っていない。	○	訪問者にメモを渡し、自由に記入して頂き、帰りに意見BOXに入れて頂く。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ヒューマンヘリテージ便り」や小布施ホームからの「家族便り」にて報告している。健康状態については、度々電話あるいは直接お話している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の家族会の際の交流にて自由に意見を言い合える場を設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員と良いコミュニケーションをはかり自由に職員の意見が言えたり提案をどんどん取り入れて働きやすい環境作りに配慮している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	お互いの要望を十分に取り入れ、急な勤務交代でも快く働けるような対応をしている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員個々の状況を理解し、働きやすい楽しい、生きがいとなるような職場作りを心がけている。新しい職員が利用者と関わる際は紹介し、親しくなって頂くよう配慮している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の職員会の際に職員が法人内外の研修会で学んだ内容を入れ、全体のレベル向上につとめている。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>長野県域グループホーム会などのネットワークを通じ、情報交換研修会に積極的に参加し、職員に最新情報を伝え運営、管理サービスの質の向上に努めている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間のトラブルがないよう相互間の理解と配慮を示し合い、意見や提案のしやすい環境づくりをしている。楽しく働けるよう個人のアイデアを大切にしている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の個々の努力を認め、褒め、感謝を示し、各自の能力など個性を尊重し、生き生きと働けるように努めている。</p>		

ヒューマンヘリテージ小布施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と十分コミュニケーションをはかり、言葉だけでなく、内面の深い部分でのメッセージも探るように努め、ふさわしいケアに生かせるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をよく聞いて、求めている内容に沿ったケアが行えるよう努めている。 家族と利用者との良い橋渡しとなるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要としている支援を職員間で統一して行えるよう努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しでも早く馴染めるよう暖かい、安心できる声がけや環境づくりに心がけている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活リハビリを重視し、本人が喜んで生き生き生活できるよう、生活の主役であるよう、側面から支え、表情や言動から発するメッセージを正しく受け止めるよう努め、共に生活を楽しめるようにしている。	

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が本音で職員と気軽に話し、喜怒哀楽を共にできる関係を築けるよう努めている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との連絡を密にし、本人と家族との良い関係を築けるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係の支援にのみ留まっている。	○	本人の以前の馴染みの関係や環境を大切にすよう、情報を取り入れ支援できるように努めていきたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の個性を尊重し、互いに穏やかに楽しく関われるよう仲裁に入ったり、皆でレクや会話に入り楽しめるよう配慮している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了すると関係は継続していない。	○	契約終了後も連絡をとり、利用者に再会して気遣いや関心を払っていく。

ヒューマンヘリテージ小布施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が希望や意向を積極的に述べたり表現することは、なかなかないので把握が不足している。	○ 一人一人と見つめ合い、思いと心を把握してゆくように時間を有効に用いていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のこれまでの暮らしを生かしたケアが十分出来ているといえない。	○ これまでの暮らしぶりを家族からの情報や本人の記憶や感情、思いから察し、ふさわしい仕方で馴染みのある生活にいかしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の一人一人の過ごしかたはマンネリ化している。特変がある時はすぐに対応している。	○ 利用者一人一人にとって満足のゆく過ごし方を追求し提供あるいは側面的に支援していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員がようやく揃い、個人情報をもとにケアプランをたて始めたところである。	○ チームメンバーが介護計画をたてる知識を得、ふさわしい計画をたてる事に加わっていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	まだ今後の課題である。	○ 今後、きちんと進めていく。

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録には、本人の発した言葉、表現なども詳細に記録しているも介護計画に記載しておらず、連絡帳にて必要事項を記入し、スタッフ間で統一したケアを行うようにしている。	○	計画作成担当者に協力し、記録評価ができるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	昨年、町の文化祭見学に行ったが他の分野との交流は今後の課題である	○	町にホームのPRをし、ボランティアを募ったり消防訓練も行い実際の場面に備えていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の高齢化、重度化に備え近隣のデイサービスの機械浴（ベッド浴）の利用を検討している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ行っていない。	○	今後、さらに緊密に情報を得、支援センターと協議していく。

ヒューマンヘリテージ小布施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	神経科の医師に当たって確認し、ふさわしい助言を頂き支援していく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	チームで話し合いをすすめ、具体的に準備できるようにしていく。

ヒューマンヘリテージ小布施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	スタッフの移動により、利用者様の移動をまだ経験していません。	○	今後、移動される方に対しては、細やかな配慮を示していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人を重んじ、ふさわしい言葉かけや対応をするようにしている。私的な会話を避け、心と意思をしっかりと一人一人に向けるよう心がけている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の思いや希望や苦情を自由に表現できるように日頃から良い関係を作るよう務め、表現して下さった時にはよく耳を傾け受け止めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや、どのように過ごしたかの希望はなかなかお聞きできてはいない。	○	一人一人の希望、例えば「日中の早い時間に入浴するだけでなく、夜寝る前に入浴したい」などの希望を何とかかなえられるように工夫していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の身支度の際に個々の希望を考慮に入れている。理容、美容に関しても本人の希望があれば考慮している。		

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳を楽しみしている。女性の方が何人かおられますので、一緒に一連の過程を行うことで喜んでおられます。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒やたばこを用いておられる方がいませんが、おやつや他の食物に関してはなるべく買い物と一緒に出かけ好みの品を購入し楽しめるようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ち良く排泄できるように時間を見てはトイレ誘導や失禁のないよう定期的な声かけをしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平均して皆さんが入浴できるよう一応の予定は組み入れていますが、無理強いせず、快く入浴できるようにしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の希望に合わせて、また必要に応じて時間や場所にこだわらず、休めるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何が、その人らしい暮らしか探求し続けているが、毎日マンネリ化していることがある。	○	もっと一人一人の能力や才能を引き出し楽しむことがないか考え続けてゆく。

ヒューマンヘリテージ小布施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、使用のお金を持って歩いているのはお一人ですが、自由に何か購入する機会はありません。	○	お金の所持、使用可能な人には見守りつつ、やって頂くことを考慮していく。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時はできる限り職員と共に買い物、散歩、ドライブなどにでかける。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、花の展示会、他施設の見学、温泉での入浴に出かけられるようにしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書サイズの絵に塗り絵をして頂き、葉書に手書きの文章を書いて頂き家人や友人に送ったりしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者を快くお迎えし、遠方からの親戚や家族も長時間交われるよう、宿泊や食事の交わりを受け入れている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、一人一人の必要や楽しみや安らぎとなる事、内容を見出し積極的に働きかけている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を自由に入出入りして頂き見守り重視でその人の気持ちに寄り添えるよう、すぐに散歩やドライブ、買い物などに行って気持ちを聞くよう心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間で声がけをし、見守りを重視することで、所在や様子を把握し、安全に心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	思いがけない物品が危険な物となる事もあるので、スタッフ間でヒヤリハットのノートを活用し、未然に注意深く防ぐよう心がけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ間でも話し合いを密にしたり正しい方法を学んで対応し、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフ個人がよく学んで対応できるよう心がけている。	○	今年、早々に消防の方に来所して頂き実際的な訓練をスタッフと利用者が行い近隣の方々にも参加して頂き協力をお願いする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年、今年は避難訓練を実施していない。		

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族との率直な対話を通し、対応策を話し合いできる限り早い対応をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	よく観察した事と考え得る関連情報から予測した対応をし、家族や理事長とも連絡を密にし、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が理解しやすいようなカードに使用薬をまとめ、理解できるようにしている。新しくオーダーのあった薬の使用法、副作用について熟知して観察できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェックシートにより便習慣をチェックし、予防のために早目に対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア、義歯管理、口腔内チェックをし早期異常の発見に努め、歯科または口腔外科受診を行っている。また、医師のオーダーに従い、早期治療に務めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の飲水量のバランスをチェックし、スタッフ間で不足が生じないように、あるいは過剰摂取に際しては減量するように工夫している。		

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	長野保健所の研修会などの最新情報に通じ、マニュアルに従ってスタッフ間できちんと予防、感染拡大を防ぐように努めている。疑われる症例は早目に対応にあたっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩、夜勤者が器具類の消毒にあたり、たえず清潔な物が使用できるようにしている。利用者様やスタッフも料理の際はブラシを用い、手洗いを十分行えるよう心がける。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	美化に心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物品の整理や美化に務めているが、生活感や季節感を取り入れる工夫はできていない。	○	居心地よく過ごせるようにもっと工夫できる分野やアイデアを生かしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が本当に安らいで幸福そうでいられることや、居場所を理解し、大切にしている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

ヒューマンヘリテージ小布施

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域に当ホームの利用方法を知って頂き、馴染んで頂き有効に活用して頂きたい。
 サロンの特徴を生かし、地域のあらゆる年代層の方々にPRし、気軽に立ち寄れる場としていきたい。
 区域の人々の認知症の方々やご家族の相談窓口のような場となり、問題を未然に防ぎ明るい、幸福な家族生活を送れるように貢献していきたい。